

野幌森林公園にヒグマ

78年ぶり 目撃情報、ふん確認

【江別、北広島】10日夜から11日朝にかけて、道立野幌森林公園（江別市、北広島市、札幌市厚別区）でヒグマの出没情報が相次いだ。これまで森林公園にクマはいないとされており、江別市によると、敷地内でヒグマが公的に確認されたのは1941年（昭和16年）以来78年ぶり。

（山本哲朗、河田俊樹）

森林公園は面積2053 近郊自然林。地域では「クマは世界的にも珍しい都市マはいる」という認識が



定着していた。

江別市によると、10日午後10時50分ごろ、森林公園の南側にある立命館慶祥中・高（江別市西野幌）付近で体長1.5メートルのクマを見たという目撃情報が寄せられた。翌11日午前8時ごろ、同校から北東に約3キロの森林公園登満別口（同）付近にクマのふんがある、と公園を

ごみ処理など注意を

大都市圏のヒグマの生態に詳しい酪農学園大の佐藤喜和教授（野生動物生態学）の話、札幌圏のヒグマは生息域が拡大しており、恵庭市や北広島市方面から林伝いに移動し、野幌森林公園にも現れると想定していた。今回の個体は行動範囲の広い若いクマとみられる。おいしい食べ物を求め

管理する道立北海道博物館（札幌市厚別区）に公園利用者から連絡があり、同館職員が駐車場や周辺遊歩道の2カ所でふんを確認した。

これより早く、北広島市

て来ているだけで、ここで居着くかはまだ分からない。元の山系に戻ることも考えられる。すでに札幌市の多くの地域で、クマは都市住民のそばにいる。森林公園周辺の住民も、クマとの向き合い方を考え、今後のごみ処理やコンポストの管理に注意してほしい。クマは希少な野生動物。クマが出てパニックにならないように備えてほしい。

では10日未明からクマが相次いで出沒。江別市によると、北広島市から「クマを追跡し、江別方面に向かう姿を確認した」との連絡を受けており、森林公園のクマは同一個体とみられる。

道博物館は11日、森林公園の駐車場や入り口などに注意喚起文を掲示。江別市は全小中学校に屋外の授業や部活動が必要に応じて中止し、登下校の安全を確保するよう求めた。

北広島市や札幌市厚別区の小中学校や高校の一部でも登下校時の見回りなどが行われた。江別市は道警、道博物館、北海道猟友会などと今後の対応を協議する方針だ。



道立野幌森林公園にヒグマが出没し、注意を呼び掛ける掲示を張る北海道博物館職員＝11日午後0時40分、江別市西野幌の野幌森林公園登満別口（河田俊樹撮影）

10、11日にヒグマが目撃またはふんが見つかった地点